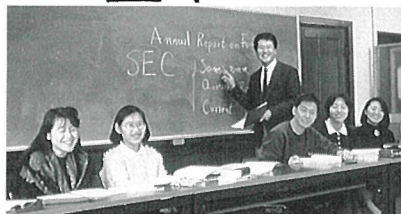
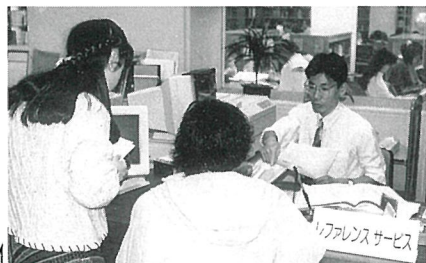


同志社大学

学術情報センター報

No.6

1994/1



いま、学術情報のかたちは
急速に多様化しています
今後は視聴覚資料と
デジタル情報が
大きな比重を
占めることになるでしょう
刻々に変化する教育・研究に
対応して
利用者に役立つ学術情報の
提供を目指します

目次

特集

学術情報のかたちと利用 —— 非図書資料を中心に

- | | | |
|-------------------------|------|---|
| 1 NIFTY-Serveを利用した資料検索 | 森 孝一 | 2 |
| 2 研究指導における資料・文献リサーチの具体例 | 細谷正宏 | 4 |
| 3 データベース —— 情報の海へ | 編集部 | 7 |

連載

学術資料の利用 2 —— 二次資料の活用 9

- | | | | |
|----------------|---------------|---------------|----|
| ニュース | 1.次期大型計算機について | 2.インターネットについて | 13 |
| CD-ROMリスト・お知らせ | 15 | | |

NIFTY-Serveを利用した資料検索

森 孝 一

Religion IndexというDB

私が自分の研究のために利用し、また大学院生に指導している商業データベースによる文献検索を紹介いたします。ここで取り上げようとしているのは、一次資料ではなく、二次資料、すなわち、あることならについての研究書あるいは研究論文についての検索です。

私が利用している神学・宗教研究関係のデータベース(DB)は、アメリカ神学図書館協会(American Theological Library Association)作成のReligion IndexというDBです。このDBは商業DBのDIALOGに含まれていますので、同志社大学の学術情報センターからも検索することができますが、私はパソコン通信のNIFTY-Serveの海外データベース検索サービス、IN-FOCUEを利用しています。INFOCUEを通じて、欧米のあらゆる分野にわたる約850のDBにアクセスできます。もちろん、Religion Indexもこれに含まれています。学情を利用する場合、開館時間が決っており、そこまで出向かなければならないという面倒くささがありますが、INFOCUEの場合は、自宅や研究室のパソコンから午前7時から午前2時まで、いつでも利用できるという利点があります(INFOCUEについては『NIFTY-Serveで使える海外データベース・INFOCUEマニュアル』ニフティ株式会社を参照)。

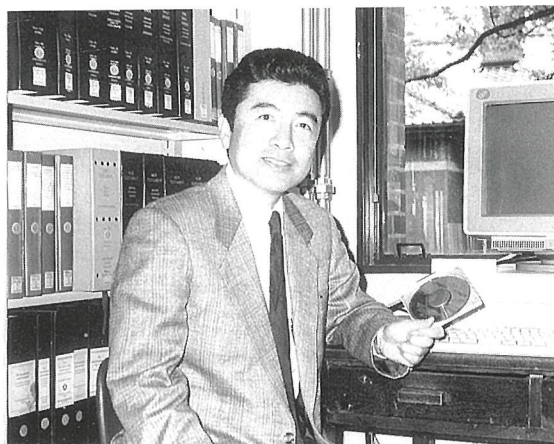
Religion Indexには、欧米言語によって発行されている約500の宗教・神学関係の雑誌(ほぼ完璧に網羅されている)に掲載された論文と書評、欧米語で出版された単行本が含まれています。博士論文に関しては別のDBとなりますが、これもINFOCUEからアクセスできます。Religion Indexは1949年以降のものをカバーしていますので、神学・宗教研究関係の二次資料については、ほぼ完璧に検索することが可能です。

同志社大学の学情の図書検索システムは単行本の書名のなかに含まれている言葉による検索しかできませんが、Religion Indexは内容に関するキーワードで検索できます。もちろん、著者によっても検索できます。さらに便利なのは、共著や論文集の場合、それぞれの著者や論文のレベルにまで下がって分類されていますので検索もれが最小限に押さえられています。本学の学情の雑誌の検索にいたっては、雑誌名だけしか検索できないのですから、これはDBとは言えません。

NIFTY-Serveについて

パソコン通信のNIFTY-Serveは、パソコンと通信モデム・通信ソフトがあれば簡単に利用できます。書店やパソコン・ショップで販売されているNIFTY-Serveの『アクセス・ガイド』を購入すると袋綴じの形でNIFTYのIDナンバーが入っており、パソコンで通信ソフトを立ち上げ、NIFTY-Serveにアクセスし、画面の指示に従って入会の手続きをすれば利用できます。

Religion Indexで検索をする場合は、NIFTY-



Religion IndexのCD-ROMを示す執筆者

ServeのメニューからINFOCUEを選択するだけで、あとは画面の指示に従い、自分の利用したいDBであるReligion Indexに進みます。ただ、画面の指示も、こちらからの指示の入力も英語で行わねばなりません。紙幅の都合で検索例は省略しますが、先に紹介しました『INFOCUEマニュアル』にはいろいろな例が出ています。

検索の具体例

例えば、「南アフリカにおける宗教」についての研究書と論文を検索する場合は、SOUTH AFRICA/AND RELIGIO/で検索します。「/」はAFRICANやRELIGIOUSで出ているものも含めるためです。そうすると340件あることが分かります。そして、最新の10件を表示してきます。この時点で、現在までの検索費用が9ドルであると表示されます。次に、この後、どう進むかを聞いてきます。さらに残りの330件のうち、最近のものからさらに何件表示してほしいか、あるいは、すでに表示した最新の10件のうちのどの本文を画面に表示してほしいのかなどです。先に進むに従って料金が加算されて行きます。私の場合は、文献の検索だけをINFOCUEで行い、単行本の注文はいつも利用しているアメリカの書店にファックスで発注し、論文の場合は、留学中の卒業生にコピーを頼んでいます。理由はこの方が安く済むからです。

最初は慣れませんし、進むに従って料金が加算されるのは心臓によくありませんので、同じReligion IndexのCD-ROMを利用する方がいいでしょう。これは神学部研究室にあります。ただ、CD-ROMだと最近1年間のものはカバーできませんので（毎年新しいCD-ROMが送られてきますが）、1年前までのものはCD-ROMでゆっくり検索し、最近のものはINFOCUEでオンライン検索するのがいいでしょう。

「南アフリカと宗教」についての検索は、研究論文や研究書だけでは不十分です。新聞記事については、日本と諸外国の主要各紙のDBにNIFTY-Serveからアクセスできます。この11月2日から、海外で「NEWS SOURCE USA」として提供されている「米国新聞雑誌記事情報」もNIFTY-Serveから直接検索できるようになりまし

た。これはTimeやBusiness Weekなど米国の主要雑誌と約60の米国内発行の新聞のDBです。

新聞に掲載されない南アフリカの情報を手に入れるためには、私はNIFTY-Serveの「クリップ・モード」を利用しています。これは一種の新聞の切り抜きです。あらかじめ、「クリップ・モード」にキーワード（複数も可）を登録しておくと、新聞記事になる前の、世界各国に駐在している記者や特派員からの生の記事原稿のなかから、登録したキーワードに関するものを選択してストックしておいてくれるという便利なものです。これを利用して感じることは、例えば南アフリカについては、記事原稿のうちの1割ほどしか実際には新聞の記事にはならないということです。反対にいうと、この「クリップ・モード」を利用すれば、ボツにされた記事原稿まで目を配ることができるというわけです。

おわりに

このように、神学・宗教研究関係の二次資料については、自分のパソコンを通じて検索できますので、大切な時間と費用をかけて外国に出かけ、大学や研究施設の図書館に潜り込んで、ほこりにまみれながら、単行本や雑誌をめくるという必要はなくなりました。今までそれに当てていた時間と費用を、自分の研究している事柄に関係のある場所に身を置いてみて、肌で何かを感じたり、研究者をはじめいろいろな人と実際に会って話しをするということに当てることができるようになりました。

ただ残念なことは、NIFTY-ServeはINFOCUE以外にも電子メール、各種情報などのサービスがあるので、INFOCUEや「米国新聞雑誌記事情報」などの資料検索に使った費用だけの請求書をだすことができないことです。そのため、大学の個人研究費などを使えない不便さがあります。この件について、NIFTY-Serveの改善を期待するとともに、個人研究費の扱いについて大学の改善を期待しています。

（もり こういち・神学部教授）

研究指導における資料・文献リサーチの具体例

細 谷 正 宏

はじめに

アメリカ研究科は1991年4月、アメリカ研究に関するかぎり日本では初めての独立研究科として発足し、本年度は博士前期課程の第3年目を迎えると同時に、後期課程も設置された。現在博士前期課程には61名（各2名のアメリカ人、中国人留学生を含む）、後期課程には13名（1名の中国人留学生を含む）が在籍中である。1年2学期制で、講義はすべて半年で終了し、院生1名に複数の教員が研究指導する体制をとっており、1週最低90分のオフィス・アワーを設けている。

これまで入学してきた院生の研究関心領域はきわめて広範囲にわたっており、社会科学系の関心を持つものも多い。そもそもアメリカ研究が学際的な研究であることを想起すれば当然といえよう。そこで研究指導のあり方もいろいろ工夫を重ねてきているが、これまでの2年間の経験から、従来のように図書資料を中心とする研究指導に加えて、非図書資料の活用をより積極的に推進しつつある。以下に述べるような非図書の利用の例以外にも、便利で研究の充実に役にたつものも多いと思うが、本研究科における利用の一例として紹介したい。

アメリカ研究科における研究指導—資料・文献検索

「アメリカ研究の課題と方法」（1年次前期必修科目）では、アメリカおよび日本におけるアメリカ研究の発展と現状の概略を学ぶ一方、院生は各自の研究テーマを設定するよう求められている。そのさい「参考文献目録」が渡されるが、それとともに、次のような非図書資料、とくにCD-ROM、パソコン通信によるデータベースなどが活用されている。

(1) DOORS

本研究科の院生は本学出身者だけとは限らな

いので、今年度はDOORSの簡単な講習会を開いた。アメリカ研究所とアメリカ研究科が購入した図書資料のうちDOORSに入力されているのはまだわずかであるが、逐次刊行物に関してはすでに全学の分が入力済みであるので、いまやDOORSを使いこなすことは必須である。現在学内の図書資料のうち新分類の分が遡及入力中であるが、アメリカ研究所所蔵の資料について遡及入力は全く行われていない状態なので、アメリカ研究所の図書資料を十分活用するためには、DOORSとカードカタログの両方を検索しなければならぬことを強調している。この実状をよく知らなかったために、膨大な貴重な資料を利用していなかった例があったからである。

(2) NACSIS

本学以外の図書資料については、NACSISの利用をすすめている。NACSISのなかでも、アメリカの議会図書館および日本の国立国会図書館の書誌情報が包括的であり、文献目録の作成には欠かせない。とくに本研究科の院生の関心は第2次大戦以降、しかも、1960年代以降にある場合が多いので、その意味でNACSISは非常に便利である。問題はこれで探しだした文献の利用であるが、学内にない場合はこれもNACSISの国内研究機関の所蔵情報によってその存在を確認し、相互利用の手続きによって利用可能である。現在アメリカ研究科におけるNACSISの利用は、本学の学術情報センターの代行検索に頼っている。

(3) 日経テレコン

日本の新聞記事情報については、本学学術情報センターでの日経テレコンの利用をすすめているが、これも本学の学術情報センターの代行検索に頼っている。なお、外国のアメリカの新聞を含めて、日経テレコンで検索利用できる新聞記事情報は、後述のNIFTY-Serveからも利用可能である。

(4) CD-ROM

1) Humanities Index, Social Sciences Index

アメリカ研究科ではHumanities IndexとSocial Sciences IndexのCD-ROMを定期購入している。このCD-ROMの利用によって、短時間にしかも網羅的に、自分の研究テーマに関する論文の検索ができる。ちなみにCD-ROM1枚のHumanities IndexあるいはSocial Sciences Indexで現在までの約10年分の主要な学術雑誌の論文の検索ができる。検索スピードが速く、操作のやり方を覚えてしまえば、これほど便利なものはなく、院生には大変好評である。もっともここで検索できるのは、論文の情報であって、論文そのものではない。したがって論文が掲載されている雑誌あるいは論文のコピーを入手する必要がある。現在の院生の不満は折角検索した論文の掲載されている学術雑誌が学内にない場合が多かったり、あっても利用するのにさまざまな障害があって、利用できない場合があることである。学内の学術雑誌の充実と利用の拡大が望まれるところである。

2) Newspaper Abstracts

アメリカ研究科ではNew York Times, Wall Street Journal, Los Angeles Timesなどアメリカの主要9紙のabstractsとindexを入力したCD-ROMのNewspaper Abstractsを定期購入している。メニュー画面の指示に従ってキーワードなどを入力すれば、これら新聞の記事検索をきわめて迅速に行うことができる。ただし現在アメリカ研究科が持っているCD-ROMはWashington Postは1989年から、New York Timesは1987年から、ほかは1985年以降に限られる。それ以前についてはたとえばNew York Times Indexを使わざるをえないが、残念ながら本学にはないので、京都アメリカンセンターのものを利用することになる。これもやはり検索できるのは記事の見出しや収録新聞と日付などであって、記事そのものではないため、本文を入手する必要がある。もっともアメリカの地方紙も含めて、1970年代以降のものであれば、後述のNIFTY-Serve, Lexis/Nexisなどを通じて記事そのものを入手することも可能である。簡単な操作で検索できるので、すべて院生自身が操作していて、ほぼ順調に進んでいる。



アメリカ研究科生を研究指導する。

(5) パソコン通信による資料・文献検索

1) NIFTY-Serve

これは電話回線を通じて日本内外の1000以上のデータベースにアクセスできる。アメリカ研究科では国内外の新聞記事情報、雑誌記事検索などが主に利用されている。なかでも“INFOCUE”が便利である。これには検索レベルが3段階あり、Iのレベルでは、大まかな検索分野、たとえばHistoryをメニューから選択した後、検索するキーワードを入力すると、それに該当する情報がいろいろなデータベースから網羅的に検索でき、さらに詳細な情報を見たり、本文そのものが入力されている場合にはダウンロードすることも可能である。Iのレベルが便利であるが、その分だけ課金が高くなる。しかし、それだけの情報を集めるための時間と労力を考えれば、決して高いとはいえないと思うが、院生には負担になる懸念がある。

2) Lexis/Nexis

本学の法学研究科などと共同で加入しているもので、NIFTY-Serveでは利用できないNew York Times (1980年以降)の記事なども検索できるが、Lexis/Nexisの最大の強みはアメリカの最高裁の判例をはじめ膨大かつ詳細な法律関係のデータベースを網羅していることであろう。現在研究科ではこのデータベースにアクセスするところまでは行うが、実際の検索、ダウンロードなどの操作は院生自身が行うため、院生自身が操作

の操作は院生自身が行うため、院生自身が操作に習熟する必要がある。この段階までの院生への課金はないが、プリントアウトした場合のみ課金している。

以上は主に、「アメリカ研究の課題と方法」の研究指導の一部としての例にすぎないが、ほかの科目においても研究テーマの設定、文献目録の作成、先行業績の検索、学内外の所蔵状況の把握などに利用されている。

今後の課題

上記のように、まだ初歩的な段階にしかない利用の例を見てもわかるように、学内外の「非図書資料」の利用はいままでの「手作業」による文献検索などに比べ、はるかに効率的である。したがって、今後ともますます利用の促進をはかることは、院生の研究指導の充実のためにも緊急かつ必要であるが、そのための課題をいくつか思いつくまま述べてみることにする。

◆学内のデータベースの充実、とくに歴史研究に欠かせない本学の「旧分類」をも含めた全学の図書資料の速やかなデータベース化が望まれる。

◆必ずしも非図書資料に限らないが、DOORSで所蔵状況が明らかになった資料は、少なくとも本学の大学院生以上の研究者には学部、研究科、田辺校舎などの別なく、有効に利用できるようにすべきである。

◆全学の図書資料（DOORSで検索可能なもの）について一定の貸出期間が経過したら返却を求めるリコール制の導入により利用の効率化を計るべきである。

◆アメリカ研究科の必修科目である「フィールドワーク」で在米中の院生との海外通信を可能にするため、E-mail、Bitnetなどを簡単に使えるようにするためのハード（機器の拡充、設置場所の確保など）とソフト（利用費用の補助など）の両面にわたる条件の整備が望まれる。

◆データベースに関する情報（特徴、アクセスの仕方、費用、Internetなど）、それぞれのデータベースに特有の検索の仕方、効率的な検索用語の入力の仕方などに関する情報提供および支援

体制の充実が望まれる。

◆レファレンス・ライブラリアンのように、非図書について精通した代行検索者の確保が急務である。

◆非図書のなかには教育上効果的なビデオやスライドなどもあるので、この種の資料についてもデータベース化と利用促進のための条件整備が望まれる。

◆アメリカ研究所が加入しているICPSR（Intercollegiate Consortium for Political and Social Research）を通じて収集している磁気テープに入力されたデータの有効利用も急務であるが、これについても利用促進のための支援体制が必須である。

おわりに

私がかつてアメリカ留学中、指導教授の一人が「大学院生にとって必要な資料が本大学にないのは恥である。資料が利用できないという理由で、君の研究が進まないという状況は許されないことだ」と述べたことがある。この教授の研究に対する熱意と厳格さはいまでも強く印象に残っている。いつか私も、かつての指導教授のように述べる日がくることを願っている。

（ほそや まさひろ・アメリカ研究科教授）

コンピュータ技術の発達により、今やどんな情報もいながらにして入手できるようになりました。特にデータベース分野の充実はずばらしく、学術情報センターでもこれらを積極的に取り入れ、提供を図っています。データベースは大きくオンライン（外部商用データベース等）とオフライン（CD-ROM等）に分けることができますが、今回は本センターが現在提供しているオンライン外部データベースについて具体的に紹介します。オフラインのCD-ROMについては本誌のNo.4で詳しく紹介していますのでご覧下さい。

DIALOG

DIALOGはアメリカのダイアログ社が提供する英文の情報検索システム（データベース）です。これには400以上のファイルがあり、3億3千万以上のレコードが収められています。あらゆる分野を網羅しており、内容は書誌情報（図書や雑誌記事に関する情報）、新聞や雑誌の記事（全文）、各種便覧類、数値情報（統計、財務、物性等）、特許情報など多岐にわたっています。

実際の検索例を見てみましょう。下記は「アメリカの森林破壊」に関する文献を生物科学の文献ファイル“BIOSISPREVIEWS”で調べた例です。前半は、ダイアログ社に接続され、具体的な検索が始まるまでのステップを示しています。後半は実例です。まず当該ファイルを選択し、「森林」「破壊」「アメリカ」などの言葉を入力します。その結果該当する文献が63あり、最初の情報を表示しました。最後の部分は、検索終了後の表示で、検索料金等が示されています。

DIALOGには単に情報を検索する以外に様々な機能があります。例えば、どのファイルを検索したら良いかわからない時、適切なファイルを

DIALOG検索例

```
*****
Welcome to DIALOG
Dialog level 31.10.01A

Last logoff: 04nov93 01:59:32
Logon file405 04nov93 02:01:04
SYSTEM:HOME
Menu System II: D2 version 1.6.5 term=ASCII
*** DIALOG HOMEBASE Main

Enter an option number and press ENTER to vi
item listed below; enter a BEGIN command to
database.

1. Announcements (new databases, price c
2. DIALOG HOMEBASE Features
3. DIALOG Free File of the Month
4. DIALOG Database Information and Rates
5. Database Selection (DIALINDEX/OneSear
6. DIALOG Command Descriptions
7. DIALOG Training Schedules and Seminar
8. DIALOG Services

9. Begin DIALOG Menus (SM)
10. Begin DIALOG Business Connection (R)

Enter an option number or a Begin command an
/H =Help /L =Logoff /NOMENU
? B 5

File 5:BIOSIS PREVIEWS 69-93/DEC BA9611:BARRM
(c) 1993 BIOSIS

Set Items Description
---
? SS FOREST AND (DESTROY? OR DISRUPT?) AND USA
S1 52359 FOREST
S2 13938 DESTROY?
S3 28923 DISRUPT?
S4 223076 USA
S5 63 FOREST AND (DESTROY? OR DISRUPT
? T S5/3/1

5/3/1
10461855 BIOSIS Number: 96061855
ACCELERATING FOREST SUCCESSION IN A FRAGMENTED
BIRDS AND PERCHES
MCCLANAHAN T R; WOLFE R W
WILDLIFE CONSERVATION INTERNATIONAL, CORAL REE
P.O. BOX 99470, MONBASA, KENYA.
CONSERV BIOL 7 (2). 1993. 279-288. CODEN: C
Full Journal Title: Conservation Biology
Language: ENGLISH
? LOGOFF
04nov93 02:03:10 User371884 Session A42.2
$3.17 0.033 Hrs File5
$0.90 1 Type(s) in Format 3
$0.90 1 Types
$4.07 Estimated cost File5
$4.07 Estimated cost this search
$4.57 Estimated total session cost 0.066
```

DIALOGのファイル(例)

ファイル名	内 容
ニュース REUTERS PAPERS	ロイター社の提供するニュース 米国39紙の、全文
企業・ビジネス D&B-INTERNATIONAL DUN'S MARKET IDENTIFIERS	世界48ヶ国以上約170万社の会社情報
ABI/INFORM	ビジネス・経営管理(文献情報)
人文・社会 ERIC	教育学全般(文献情報)
SOCIAL SCISEARCH	社会・行動関連科学(文献情報)
PsycINFO	心理学と心理学関連の行動科学、 社会科学(文献情報)
DISSERTATION AB- STRACTS ONLINE	米国・英国・カナダの学位論文
科学・技術 CA SEARCH	化学全般(文献情報)
NTIS	米国政府後援の科学・ 技術研究レポート
COMPENDEX PLUS	工学、技術全般(文献情報)
INSPEC	物理学、電気・電子工学(文献情報)
MATHSCI	数学・統計学(文献情報)
BIOSIS PREVIEWS	生物科学(文献情報)
SCISEARCH	自然科学全般(文献情報)
MEDLINE	医学・薬学(文献情報)

示してくれる“DIALINDEX”、検索した文献の複写をオンラインで注文できる“DIALORDER”といった機能です。

NACSIS-IR

国の大学共同利用機関である学術情報センターが提供するデータベースです。現在39のファイルがあり、約3000万以上の学術情報がオンラインで提供されています。各種の学会発表データベースや雑誌記事索引、現行法令等多様な内容となっています。また、目録所在情報データベースは、我が国の大学図書館等に所蔵される図書・雑誌の総合目録で、文献の探索や相互利用にとって大変便利なものです。

国文学研究資料館データベース

国の大学共同利用機関である国文学研究資料館が提供しているデータベースで、3種類のファイルがあります。「マイクロ資料目録」(約13万件)は資料館がマイクロフィルムに撮影し収集した全国の大学、図書館、文庫が所蔵している写本、版本の目録データを累積したものです。「和古書目録」(約6400件)は、資料館が所蔵する和

NACSIS-IRのファイル(例)

ファイル名	内 容
学位論文索引	我が国の大学で授与された博士学位論文の索引情報
経済学文献索引	我が国の経済学分野の学術文献の索引情報
維新資料綱要	「維新資料綱要」(全10巻)の全文および「大日本維新資料」の索引情報
木簡データベース	我が国で発掘された木簡の釈文および報告書の索引情報
研究者ディレクトリ	大学等の研究者の研究課題・発表論文等の情報
データベース・ディレクトリ	大学等で作成、検索サービスされているデータベースのディレクトリ

古書(写本、版本)の目録です。「国文学論文目録」(昭和56年～平成2年分約9万件)は、雑誌、紀要、論文集等に掲載された論文の目録データを累積したものです。

日経ニューステレコン

日本経済新聞社が提供する新聞記事を中心としたデータベースです。全国紙を始め、一部の地方紙、英文紙等が収録されています。詳細は本誌No.2をご覧ください。

以上が現在提供しているデータベースです。内容、利用方法、料金等それぞれ異なります。詳しいことは遠慮なく係員にお尋ねください。

学術情報の世界でデータベースは限りない可能性を秘めています。情報の海とも言えるデータベースを大いに活用していただくことを願っています。

利 用 料 金

DIALOG	接続料・出力料 実費 *ファイルによって異なる 回線料 1分80円
NACSIS-IR	接続料 1分50円 出力料 1件13円 目録データベースは無料
国文学研究資料館	TSSジョブ 1分1円 CPU使用 1秒6円 検索料 1回40円
日経ニューステレコン	検索料 1分40円 *ただし5分までは無料

上記すべてプリント代は1枚10円

二次資料の活用

みなさんはレポート・論文を作成する際など、いざ関係資料を集めねばならなくなった場合、どのようにして資料を収集していますか？日頃カウンターで質問を受け付けていますと、たまたま見つけた文献の注などから、芋づる式に収集している人や、開架閲覧室で適当に見つけた図書を利用するだけで満足している人をよく見かけます。もちろん、この方法がまったく誤りであるとはいえませんが、今回とりあげた二次資料というものを利用すれば、ほんの少しの努力で求める文献を探索することが容易にできるのです。みなさんも一度試してみてください。

二次資料を利用しよう

・二次資料ってどんなもの？

具体的な話にはいる前に、前回の連載記事「一次資料と二次資料」から、二次資料とはどういったものを指すのか、もう一度復習しておきましょう。

二次資料とは、

一次資料*への案内・手引きとなる目録、書誌、抄録、索引、図書解題などの類。大別して図書目録、雑誌目録、文献目録などの書誌と雑誌や技術レポートなどを対象とした抄録・索引誌などがある。

(最新図書館学事典 草野正名編より)

*注：図書や雑誌の記事を指します

をいうのでしたね。

ではもう少し具体的に、二次資料の中身と利用法について、みていくことにしましょう。材料として、学術雑誌の論文を探索する際の有用な二次資料であり、もっともポピュラーな索引誌といえる国立国会図書館編集の『雑誌記事索引』を例に挙げて紹介してみます。せめて、この二次資料を知っているだけでも、みなさんの勉学生活がどれだけ彩りのあるものになるか、想像に難くありません。

『雑誌記事索引』〈人文・社会編〉を利用してみよう

・索引誌『雑誌記事索引』の概要

二次資料のなかでも、雑誌に掲載された論文や記事を検索するために、その論題・著者・掲載雑誌名・巻号・発行年等を、主題別に配列して編集発行されるものを索引誌とよびます。ここであげる『雑誌記事索引』は、国立国会図書館に納本された学術雑誌や研究紀要の記事を対象とし、独自の分類によって配列収録した季刊の索引誌で、〈人文・社会編〉の他に〈科学技術編〉が編集されています。その上、5年単位で分野別に累積索引版も発行されており、これを利用すれば、1948年まで遡って文献を調査することが可能です。(請求記号P027 Z3 今出川：書誌コーナー 田辺：参考図書雑誌室)

なかでも、累積索引版は分野別(政治・行政、法律、経済、社会・労働、哲学・宗教、歴史・地理、教育・スポーツなど)に再編集され、各編に索引があるほか、全巻を通しての『総合索引・著者名編』『総合索引・件名編』も用意されており、たいへん便利なものになっています。

・もし、大学問題について、自分でテーマを設定してレポートを作成せよといわれたら…

それでは、「大学問題」についてレポートを作成するという仮定で、実際に『雑誌記事索引』累積索引版をつかって関連する文献を調べてみましょう。

まず、『雑誌記事索引』の累積索引版をひくときは『総合索引・件名編』がありますので、そのなかの事項索引で「大学」の項をひいてみます。図1は、「大学」の項には、大学に関する文献がどのような事項に分けられているのかを示すために、該当頁を転載したものです。

大学	
一教育法●大学	法387
一大学	教572
一大学☆大学史	教633
一〈大学生〉	教661
一〈音楽〉●(大学)	芸395
一学術・学術体制☆教育研究活動	学21
大学院一大学☆大学院	教599
大学運営一大学☆管理・運営	教587
大学改革一大学●大学改革	教591
大学開放一大学●公開講座・大学開放	教597
大学各論一大学☆(大学各論)	教580
大学管理一大学☆管理・運営	教587
大学キャンパス一建築●●学校	芸312
大学教育	
一大学☆大学教育	教600
一〈キリスト教〉(ユダヤ教を含む)☆キリス	
ト教教育	哲494
大学教員一大学☆教職員・研究者	教592
大学行財政一大学☆大学行財政	教631

図1『雑誌記事索引』人文・社会編 累積索引版¹⁹⁸⁰₁₉₈₄の「総合索引・件名編」

これをみても明かですが、大学に関わる問題ひとつをとっても、大学運営や管理、改革や開放、大学行財政など様々な視点が存在することがわかります。ですからもし、自分の調べたいテーマがおぼろげで、対象を絞り込むのに困っていても、この索引をみることで、潜在的な興味や関心が喚起され、ヒントを与えられることがよくあります。

さてここで問題を絞り、「大学改革」について書こうと決めれば、指定の頁(教591=累積索引版 教育・スポーツ編の591頁)をみて、掲載されている論文を自ら選択し、リストアップしていけばよいわけです。

図2は「大学改革」に分類される雑誌記事の掲載頁ですが、論文名・著者・掲載雑誌名・掲載巻次・発行年・掲載頁が挙げられています。このように、いったん雑誌に掲載された論文を、利用しやすいように加工し、主題や分類の体系に沿って整理したうえ、索引も付加するこうした二次資料を、みなさんが文献探索に利用しない手はありません。

【『雑誌記事索引』累積索引版は、現在1984年までを対象に編集されたもので発行がとまっており、1985年から1989年までを対象とするシリーズが現在編集中です。そのため最近発表された文献を探索するには、同じ『雑誌記事索引』の季刊版で調べていくしかありません。ところが季刊版には上に挙げたような事項索引はありませんので、目次の主題分類表をみて、該当すると思われる分野を通覧して探索するようにしてください。】

・二次資料の効用

いま見たように、特定のテーマに関してどのような研究資料があるのか、その必要な文献や情報を、的確に網羅的に、しかも迅速に見つけ出すには二次資料がたいへん効力を発揮します。また繰り返しますが、執筆する内容が、頭の中でもまだ明確な輪郭を現わさず困っているような場合でも、掲載された情報(索引項目や論文名

●大学改革

「教育大臨調」下の大学再編——「多様化」で何がねらわれているか(疑問だらけの教育「大改革」(特集))(浜林 正夫) : 文化評論 275 ['84.2] p.67~77	[023122]
大学・一九八〇年自己改革は進んでいるか(教育論潮)(黒羽 亮一) : 季刊教育法 37 ['80.10] p.80~85	[023123]
大学改革と成人教育の問題——マックス・シェラーの構想を中心に(斎藤 昭) : 皇学館大学紀要 19 ['81.1] p.317~349	[023124]
大学改革の前提条件(青井 和夫) : 厚生補導 169 ['80.7] p.6~16	[023125]
大学の制度改革を考える(大学問題シンポジウム) : 日本の科学者 16 (1) ['81.1] p.41~48	[023126]
学部新設の構想について(大谷 明夫) p.41~42	[023127]
島根大学文理学部改組の経過と問題点(杉元 邦太郎) p.42~44	[023128]
金沢大学法文学部の改組問題(橋本 哲哉) p.44~45	[023129]
神戸大学大学院文化学研究科(博士課程)の創設(長谷川 善計) p.45~47	[023130]
討論 p.47~48	[023131]

図2『雑誌記事索引』人文・社会編 累積索引版¹⁹⁸⁰₁₉₈₄の「教育・スポーツ編」p.591


```

TYPE IN COMMAND
1/ P @DAIGAKU @KAIKAKU  → キーワード「大学」「改革」を投入
P @DAIGAKU @KAIKAKU

"K.ダイク" AND "K.カイカク"

* 112123 K.ダイク
* 7106 K.カイカク
* 768 1/ "K.ダイク" AND "K.カイカク" END NOSAVE → 検索結果件数は768件
TYPE IN COMMAND
2/ LIMIT YEAR:1984 → 1984年で絞り込んでみる
LIMIT YEAR:1984

(中略)

* 39 2/ SCAN 1 YEAR *1984* → キーワード「大学」「改革」を含み
TYPE IN COMMAND 1984年発表の文件は39件
3/ D M.Z → 表示させてみる
D M.Z
-----
( 1)
ACCN:084003449
TITL:「教育大鑑」下の大学再編--「多様化」で何がねらわれているか(疑問だらけの教育「大改革」特集) → 図2の最初の文献
AUTH:浜林 正夫
CITN:文化評論
CITY:フンビョウ
VOLN:275 YEAR:1984.02 PAGE:p67-77
NDLN:00021318 CITC:Z23-20
IDN:人文・社会編37巻01号
JCLS:AA(総合)
CLAS:F71(大学) // F23(教育政策・制度・行財政)
A1NA:浜林 正夫(ハマリン ヌサヲ)
-----
3/ END
END OF NACSIS-IR "NDLJPI(ZASSAKU)" DATABASE.
COPYRIGHT: NATIONAL DIET LIBRARY.

DB-USE CHARGE
CONNECT CHARGE= 350YEN
HIT CHARGE= 507YEN
TOTAL= 857YEN → 利用料金

```

図3 オンラインデータベース 雑誌記事索引 検索例

等)によって、自分の中にあつた潜在的なテーマにかたがあたえられ、顕在化してくることさえあるのです。

『雑誌記事索引』を一例に挙げたような二次資料は、各専門分野ごと・テーマごとに多種多様な資料が存在します。そのため、みなさんには、最低自分の専攻分野にどういった二次資料があるのか、精通しておくことを勧めます。

・非印刷メディアの二次文献

さて、従来こうした文献目録などの二次資料は、印刷冊子形態のものがほとんどでした。ところが近年は機械化がすすんで、二次資料の情報そのものがコンピュータに入力され、情報検索のためのデータベースとして作成されるようになりました。オンラインデータベースやCD-ROMといった非印刷メディアの形態をもつ資料がそれです。

同じ情報を収録したものでも、情報をいれる

媒体によって利用方法が異なるので、それぞれの特性を活かした使い方が求められてくるのですが、次に非印刷メディアによる二次資料の特徴をかいつまんでみておきましょう。

オンライン検索ができる

『雑誌記事索引』

今回例に挙げている『雑誌記事索引』は、現在ではコンピュータでオンライン検索ができるようになっています。

つまり、みなさんがDOORSで図書・逐刊を検索するのと同じ感覚で、雑誌記事を検索できるデータベースができあがり、図書館で導入している学術情報センターのNACSIS-IRでサービスが開始されました。さきに調査した主題を、「大学」「改革」というキーワード及び1984年に発行のものという条件を組合せ、検索してみた結果が図3です。

・オンライン情報検索の特徴

現在のところ、こうしたオンライン情報検索は、①通信回線を経由するため接続料やデータベース使用料を負担しなければならない。②利用時間がサービス機関の稼働時間帯に制限される。③作成が開始されてから日が浅いため、蓄積されているデータの遡及年数が限られている(『雑誌記事索引』の場合は1984年以降のデータしか入力されていない)、といったいくつかの問題点を抱えています。

しかし、オンラインデータベースで検索した場合は、①多くの観点から情報を捜し出せるよう、多彩なアクセスポイントが用意されているので、これらを組合せて複雑な概念を含む主題検索が可能である。②検索は瞬時の処理速度で行なえる。③データが常に更新されているので最新の情報を調査できる、といった大きな利点があります。今後の整備発展によって問題点も解消され、情報検索の主流として、ますます有

図4 各形態の利用特性

	利 点	問 題 点
印刷冊子で検索	① 一覧性がある ② 利用時間の制限がない ③ 通信料金を要しない ④ 過去のデータ蓄積量が多い	① タイムラグが大きい ② 検索のためのアクセス・ポイントが少ない
オンラインデータベース検索	① 多様な検索ができる ② 検索スピードが速い ③ 最新データを見られる	① 過去のデータ蓄積量が少ない ② 利用時間が制限される ③ 通信料金を要する
CD-ROM検索	① 多様な検索ができる ② 検索スピードが速い ③ 利用時間の制限がない ④ 通信料金を要しない	① タイムラグが大きい ② 過去のデータ蓄積量が少ない

用なものになっていくであろうことは疑いありません。

ただ、検索語にするキーワードに、どれだけ適切な言葉を選ぶかによって、検索結果が左右され、キーワードの選択が甘いと検索もれが生じがちです。利用者は主題事項の熟知と利用するデータベースのキーワード構成の習熟なども要求されることになってくるので、そのことを記憶に留めておいてください。(簡単な例でいえば、関西新空港の開港が、どれだけ景気や産業に影響するかを分析した論文を探したくとも、‘経済効果’等の術語が想起できないとうまく検索できません。冊子を利用した場合なら、通覧していく過程で見つけ出すことができるはずです。)

CD-ROMの導入

さて、さきに挙げたオンラインデータベースの①費用負担、②利用時間の制限という問題を解決するため、データベースをオンラインではなく、ディスクにおさめて利用しようというのがCD-ROM検索です。

残念ながら『雑誌記事索引』のCD-ROMはまだ作成されていませんが、このセンター報の4号でお知らせしたように、図書館では英文雑誌文献や判例要旨などの二次資料を検索するCD-ROMを購入し、みなさんの利用に供しています。

CD-ROMはデータが数カ月や1年単位で更新されるために、タイム・ラグの問題はありますが、オンラインデータベースと同じように、冊子に比べてはるかに多様な検索ができ、処理ス

ピードも瞬時です。その上、ディスクをパソコンのドライブによませて検索するので、通信料金が不要で利用時間も制限されることはありません。ですから、みなさんも試しにどしどし利用してみてください。これからは非印刷メディアの資料を利用する機会が増えていきますので、きっとよい勉強になるでしょう。そうして印刷冊子を利用した場合と比較して、それぞれのもつ特性を感じとってください。

まとめ

ここまで、二次文献の利用として、その代表的な資料といえる『雑誌記事索引』をつかった文献探索を例に、情報をおさめた媒体の流れ(冊子ーオンラインデータベース・CD-ROM)にそって説明してみました。それぞれに利点・欠点があるので、みなさんはテーマや状況に応じて、それぞれの持つ機能を相互補完的に使い分けて利用するのが賢明です。かなり複雑で学際的なテーマなら、検索式を組み合わせるオンライン検索するのが有効でしょうし、比較的単純なテーマや自分の中でテーマがかたまっていない場合などは、一覧性が高くブラウジング効果のある印刷冊子体を利用するなどです。

これらの利用についての相談は、レファレンスカウンターで受け付けていますので、気軽に質問してください。みなさんが上手に図書館の資料を利用できるよう、願っています。

▶ 次期計算機システムについて ◀

計算機システムを利用した情報処理教育と研究は今後も増加する傾向にあり、本学の情報処理環境も今後の利用増に、可能な限り対応する必要があります。

TSS教室を利用した授業も増加していますが、1994年度には田辺校地に工学部が統合され、計算機の利用状況も大きく変わることが予想されます。また同年度は、大型計算機システムの更新の年に当たります。

学術情報センターではこれを機に、設備・機器やシステム等の、情報処理環境の改善について検討を進めてきましたが、次の基本方針のもとに次期計算機システムの更新を1994年度に行うことになりました。

- ◎機器・設備の整備、利用手続き等の見直しを行い、情報処理施設の利用を促進する。
- ◎情報処理教室をはじめとした分散処理環境について整備する。
- ◎ここ数年の大型計算機の利用率は、依然として高い状態にあるので機能を強化する。
- ◎今後予想される学内ネットワーク構築に対応可能なものとする。
- ◎現在、大型計算機で稼働中の各種システムの資産を継承する。

以下は、次期システムの設備・機器を中心とした概要です。

大型計算機システム

中央処理装置として、今出川校地に日立製作所のHITACシリーズM-680/160Eを、田辺校地には同シリーズの上位機種であるM-880/160を導入します。

また、固定ディスクなどの補助記憶装置として、教育、特に大型計算機を使用した授業等での一人当たりのファイル量制限の緩和と、今後とも増大する学術情報データ等に耐え得る容量を確保します。

その他、プリンターやテープデッキなどの入出力装置、両校地内あるいは学外を結ぶ通信制御装置等の周辺機器を、利用動向や端末台数を勘案して必要数を設置します。

情報処理教室

現在TSS教室では、プログラミング言語・CAIやワープロ・表計算ソフト等を使用した授業などでパソコン機能のみを利用する場合でも、利用者確認や課題や答案の転送などは大型計算機を介して行っています。そこで、大型計算機の負荷を軽減するためにも、教室内ネットワークを構築して、これらの処理を教室内のサーバと呼ばれるものを使って分散化します。

対象となる教室とパソコンの台数は、今出川校地はTSS1・2・3教室に約120台、田辺校地は、新たに建設される新教室棟（恵道館）1階の、それぞれが分割して2教室としても使用可能な3つの情報処理教室に、現TSS教室を拡大移設する形で約300台が設置されます。

また、上記の教室には、DOS/VとMS-WINDOWSという基本システムを採用したパソコンを導入し、多様なソフトウェアの利用が可能となります。これまで通りの大型計算機利用ができることはもちろんです。

オープン利用室

以上の教室は、授業で使用していない時には一般利用することができますが、これとは別に今出川校地とともに田辺校地にも教室と同等の機能を持ったオープン利用室を設置します。ここでは、情報処理関係の予習・復習や宿題など自由に利用することができます。

情報処理研究端末室

本学教職員を対象とした、主に研究用の共同施設です。両校地にワークステーションやパソコンなどの各種機器を設置する予定です。

情報処理技術の発展は急速に進み、マルチメディア化が追求されるなか、機器やソフトウェアの機能もどのように変わるか、予測できない状態です。ノート型をはじめとしたパソコンの個人利用も増加し、これら情報処理機器が一つの文房具としてとらえられつつあります。学術情報センターでは今後も斯界の動向を見きわめつつ、同志社大学の情報処理環境の整備につとめたいと考えています。

CD-ROM 近況

近頃、CD-ROMの利用が急増しています。授業に関連しての利用もさることながら、好奇心から使ってみるもの、レポートの資料収集の手掛かりとするものなど、そのニーズはさまざまです。一度使った人は、再度利用することが多いようです。WINDOW表示の使いやすさ、マウスの簡単な操作などが、その人気のヒミツでしょう。利用の高いベストスリーは以下の通り。

Social sciences index

Humanities index

リーガルベース全判例要旨

このほかにも、使いこなせばこんなに便利という板(いた)＝CD-ROMも、まだまだあります。以下が現在、センターが用意しているCD-ROMの種類です。



CD-ROM所蔵リスト

(*) は近日提供予定

Social sciences index.

社会科学分野の英文雑誌文献を中心とした記事・文献索引。収録は1983年から。毎月更新。

Humanities index.

人文科学分野の英文雑誌文献を中心とした記事・文献索引。収録は1984年から。年4回更新。

The New Grolier electronic encyclopedia.

英文の百科事典。約3万項目、約1000万語。*

The Bible library.

英文の聖書(8種)。原典の音訳表示。関連刊行物(20種)

Shakespeare.

シェイクスピアの全作品を収録。あらゆる単語、フレーズから検索できる。

The Oxford English dictionary. 2nd ed. (予定)

世界有数の英語辞書。50万語と140万の用例を収録。本巻全12巻と補巻6巻を統合。

リーガルベース全判例要旨

最高裁発足後の全審級、全分野の代表的判例の要旨。大審院時代の主要判例も入っている。人名、事件名、キーワード等22項目から検索できる。年2回更新。

電子広辞苑(第4版)

見出し語のみならず説明文中の言葉からも検索可。さし絵、色彩見本、鳥の鳴き声等も視聴できる。

NHKできごとCD-ROM

「NHK放送データベース」をもとにした戦後の主な「できごと」(政治、経済、事件等)についての記録や年表。写真、実況録音も収録されている。

岩波電子日本総合年表

「近代日本総合年表 第3版」(1991)と「日本文化総合年表」(1990)をひとつにまとめたもの。

世界大百科事典

平凡社の同名事典のCD-ROM版。図や表も収録。

CD-MAGAZINE (*)

日本の一般誌、経済誌等約1300種類の雑誌をカバーした雑誌記事索引。キーワードや執筆者等から検索できる。収録は1981年から1992年まで。今後も2年毎に継続版が刊行される予定。

世界美術事典(*)

「新潮 世界美術事典」のCD-ROM版。見出し語、キーワードからの検索に加え、美術の各分野等を示すアイコンや時代区分毎の地図を使って多様な検索ができるグラフィック検索も用意されている。

お知らせ

ラーネッド記念図書館開館時間延長

本年4月より、開講期間のラーネッド記念図書館開館時間を下記のように延長します。

月曜日～金曜日 9時～19時

ただし、試験期間・休講期間を除きます。土曜日 9時～15時は変わらず。

また、今後、上記以外の開館時間変更がある場合は、掲示等でお知らせします。

DOORSデータベース 遡及入力状況

DOORSで検索できる図書は1982年度以降受入については100%ですが、1964年度～1981年度受入については、和書92%、洋書80%遡及入力が進んでいます。図書の検索をするとき、オンライン検索でヒットしない場合、カード目録（新・旧）も見てください。

閉館および閉室のお知らせ

2月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
全学	入学試験																											
計算機(田)	機種更新																											
図(ラ)															蔵書点検													
図(今、ラ)															開館時間短縮および部分閉室													

3月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
計算機(今、田)															年度処理																
図(今)															蔵書点検																
図(今、ラ)															開館時間短縮および部分閉室																

【全学】同志社全学 【計算機】計算機室 【図】図書館 【今】今出川校地 【田】田辺校地

【ラ】ラーネッド記念図書館 : 閉館 蔵書点検中 : 部分閉室

蔵書点検中は図書の貸出はできません。(返却は返却ポストへ)

このほかに閉館および閉室、または時間変更する場合がありますので、それぞれの掲示板に注意してください。

同志社大学学術情報センター報 No.6

1994年1月20日発行

編集・発行 同志社大学学術情報センター総務課

〒602 京都市上京区今出川通烏丸東入 ☎075-251-3960